



日本现代文学
精品注释丛书

无影灯

下
日文版

中国日语教学研究会推荐

〔日本〕渡边淳一著 崔昆 屈亚娟 注释 胡振平 审校

译林出版社



日本现代文学
精品注释丛书

无影灯

下

日文版

〔日本〕渡边淳一 著 崔昆 屈亚娟 注释 胡振平 审校

译林出版社



图书在版编目(CIP)数据

无影灯／(日)渡边淳一著；崔昆，屈亚娟注释．-南京：译林出版社，2004.1

(日本现代文学精品注释丛书)

书名原文：無影灯

ISBN 7-80657-561-8

I. 无... II. ①渡... ②崔... ③屈... III. 长篇小说-日本-现代-日文 IV. I313.45

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2003) 第 031972 号

Copyright © 1997 by 渡边淳一.

Japanese reprint rights in China arranged with WATANABE Jun'ichi through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

登记号 图字:10-2002-001号

书 名	无影灯
作 者	[日本]渡边淳一
注 释	崔昆 屈亚娟
审 校	胡振平
责任编辑	张远帆
原文出版	文芸春秋,1997
出版发行	译林出版社
电子信箱	yilin@yilin.com
网 址	http://www.yilin.com
地 址	南京湖南路 47 号(邮编 210009)
集团地址	江苏出版集团(南京中央路 165 号 210009)
集团网址	凤凰出版传媒网 http://www.ppm.cn
印 刷	南京通达彩印有限公司
开 本	850×1168 毫米 1/32
印 张	17.5
插 页	4
版 次	2004 年 1 月第 1 版 2004 年 1 月第 1 次印刷
书 号	ISBN 7-80657-561-8/I·428
定 价	28.90 元(上、下卷)

译林版图书若有印装错误可向承印厂调换

その十二

十二月になった。

通常、^①師走はどこの病院も患者が少ない。師も走るといふ^{きぜわ}気忙しさのせいか、のんびり病院通いなどしていられぬ、というたためかもしれない。

もしそうだとしたら、普段はたいしたことのない患者が病院へ来ている、ということになる。

オリエンタル病院も御多分に^③洩れず、その傾向があった。まだ師走の初めなので、外来の患者はさして変りはないが、入院患者のうち、人間ドックに入っていた二人は早々に退院し、その後、新しい入院希望者はあったが^④十二月中に入るといふのはいつもの半分にも満たなかった。さらに高血圧と糖尿病で特等室に入院していた二人の患者も退院した。

一日一万五千円の病室を占領しているのは、いまは花城純子一人であった。

彼女は中絶のあと、仕事の関係で一度退院し、十二月にもう一度入院してすぐ^じ痔の手術を受けた。

直江はホワイトヘッド氏法という根治手術をすすめたが、年末の歌謡番組のスケジュールは外せないということで、結局、手術としては最も簡単な痔核摘出術だけにとどめた。

① 師走/阴历十二月。 ② 師も走るといふ気忙しさのせいか、のんびり病院通いなどしていられぬ、というたためかもしれない/也许是因为人们认为，连大夫都跑起来，可不能再悠闲地往医院跑了。（など表示轻视，并加强否定的语气；病院通い意为到医院看病，通い接名词后，可表示往来、经常来往之意，要连浊。） ③ 御多分に洩れず/并非例外。（惯用句，表示和其他多数人一样等，多用于不好的意思。） ④ 十二月中に入るといふのは/说要十二月住进来的人。（の表示人。）

純子は手術台で脚をかかえた姿勢に固定され、消毒布から丸く可愛いお臀だけを出してその手術を受けた。術者はもちろん直江医師で、助手は小橋だった。

①手術にあたっては腰から下が痺れてしまう腰椎麻酔を受けたので、手術中の痛みはほとんどなかった。痛みはむしろ手術後の、肛門にさし込まれたガーゼを引き出す時のほうがひどかった。

「いたあい……」

ガーゼを抜き出される度に、純子は派手な悲鳴をあげたが、語尾を軽く引き、その声には甘えが混っていた。実際、大声で助けを呼んだところで、このまわりには純子しか入院していない。それにガーゼを引く直江が、そんな声で手加減をするわけはなかった。③どう悲鳴をあげようと、直江は確実^④に抜き出す、その時に「痛い^⑤か」とか「我慢して^⑥」などという言葉さえかけない。騒ぎ^⑦たてるほど痛くないことは、直江が一番よく知っていた。

純子も直江が悲鳴くらいで手加減する医師でないことは知っている。甘い声を出しても、所詮^⑧、引き抜かれることは覚悟^⑨している。だから純子が大仰な声をあげるのは痛みを自分に言いかけ^⑩せるため、と言えなくもない。

その苦痛のあと、純子の黒く大きな瞳には涙が滲^⑪む。清纯派歌手と言われるとおり、純子はその涙の潤^⑫んだ眼を瞬^⑬かせる。

この二日前から純子は坐浴をはじめていた。洗面器に温湯をとり、そこにお臀だけをつける。手術で痛めつけられた肛門部が、生暖かい湯に接して心地よい。純子はそれを一日に十五分ずつ二回やる。お臀だけ湯につけた恰好^⑭はあまりいいものではないが、気持^⑮がいいので純子は格別^⑯いやがらない。入院してから受けた診察や手術のせいか、彼女はたいていの羞^⑰ずかしいことには慣れてしまったらしい。

① 手術にあたっては/在手术的时候。(惯用型体言或动词连体形にあつて表示在……的时候,是一种书面语。) ② 手加減をする/照顾。(手加減表示处理事物时的斟酌、体谅、照顾。) ③ どう悲鳴をあげようと/无论怎样喊叫。 ④ 騒ぎたてるほど痛くない/并没有疼到要叫嚷的程度。 ⑤ と言えなくもない/也不是不能说、也可以说。 ⑥ いやがらない/不讨厌。

純子ともう一人、直江の特患^①のようになっている石倉由蔵^{よしぞう}は、このところまた、胃の辺りの重みを訴えていた。

また、とは言っても、もともと、胃にはなにも手をつけていないのだから、正しくは前からの病気が、さらにすすんできているということにすぎない。

「この頃、時々、胃が重く、あまり食べられないのです」

由蔵は蒼ざめた顔を直江に向けた。お腹の皮膚を切るだけの手術を受けた頃より、頬がこけ、痩^やせてきているのは、誰の目にも明らかだった。

「昨日また熱^④が出たんです。風邪でしょうか」

「夜は一時、スチームが切れるから、気^⑤をつけないけません」

答えながら直江はカルテの温度板を見た。この一週間、日に一度、由蔵はきまって三十八度前後の熱を出す。熱は時に高かったり低かったり一定せず、出てくる時間も定まらない。三十八度を超した時だけ解熱剤をうつが、それも一時のことで、注射の効力が切れると、すぐまたぶり返す。定まらず、治る気配のないのは、癌の末期に訪れる悪液質^{おんじつしつ}による熱の特徴であった。

「また新しい潰瘍^{かいよう}でもできたのでしょうか」

「そんなことはありません」

「こんな調子で年内に退院できますか」

直江は温度板を倫子^{のりこ}に戻し、窓を見た。窓の外には明るい冬の午前の陽が輝いていた。

「正月^⑥は家でしたいもんです」

訴える由蔵の横顔には死相^{しかそう}ともいいうべき、蒼い翳^{かげ}りが現れていた。

「背中^{せなか}の痛みの方は如何^{いか}です？」

① 特患のようになっている/仿佛成了特别患者。 ② 手をつけていない/没碰、没摸、没动。
③ 誰の目にも明らかだった/无论谁看都是很明显的。 ④ 熱が出たんです/发烧了。(熱が出る意为发烧。) ⑤ 気をつけないければいけません/要注意。(慣用句気を付ける意为注意、留神。)
⑥ 正月は家でしたいもんです/新年真想在家过。(したいもんです即したいものです,表示真想、很想,もの用以加强语气。) ⑦ ともいいうべき/也可以称为。(べき是推量助动词べし连体形,表示可能,“可以”。)

「おかげさまでそちらはいくらか楽なんです、なにかこの頃は意気地がなくなつて、自分でも呆れてあきいるのです」

「余計なことは考えず、のんびり休むことです」

「そうつとめているのですが、つい、いろいろと考えさせられて……」

由蔵はそこで付添いについている嫁の方を振り返つた。

「もしかして、このまま死ぬんじゃないか、なんて思つたりするのです」

「好きな釣のことも考えるんですね」

「もう一年も行つていません。治つたら休んだ分をとり返すために毎日行きますよ」

「じゃあ」

直江は軽く頭を下げドアへ向つた。由蔵は目礼を送りながら熱あつっぽい眼差まなざししで直江の背を見送つた。

由蔵の長男夫婦が直江に看護婦詰所ナースセンタへ呼ばれたのは、その日の昼休みだった。直江は会うとすぐ二人へ言つた。

「お父さんは今月一杯か、長くても来月なかばまでかと思ひます」

直江は休みの日でも告げるように言つた。

「そんなに早く……」

「この前の時点では一月一杯くらいまでは保つかと思ひました。でもいまの衰弱の様子では、年内ぎりぎりから来年の初めにかけてぐらひが精一杯かと思ひます」

長男と妻は互いに顔を見合せた。

「確かなのですか」

「まあそんなところですよ」

直江の言葉は自信あり気だった。

① 意気地がなくなつて/不爭气了。(意気地がない表示没有志气、没出息、怯懦等，这里是指导身体不爭气。)

② のんびり休むことです/最好休息。(ことです前用动词连体形，表示建议或要求他人做某事，语气缓和，“要、最好”。)

③ もしかして/或许、可能。(连语)

④ 思つたりする/有时想。

⑤ 熱っぽい眼差/热呼呼的眼神。

⑥ 今月一杯/这个月月底。(いっぱい表示全、占满。)

⑦ 年内ぎりぎりから来年の初めにかけてぐらひが精一杯/顶多坚持到今年年底明年年初。(ぐらひ表示低程度；精一杯以精一杯だ的形式表示即使用了所有的力量也不过如此的意思。)

「それでこの前の手術のことですが、その後、お父さんからなにか聞かれませんでしたか」

「この頃は毎日のように、手術をしてもらったのに、おかしいと言うのです」

長男が答えた。

「でも、癌^①だとは気付いていませんね」

「一昨日はそのことをちらっと言っていました。②もしや癌でもできたんじゃないかって」

「しかし、あなた達はなにも言ってませんね？」

「ええ、先生に言われたとおり、悪いところは摘^とったから大丈夫だと説明しました」

「それでよろしい」

直江はうなずいて、

「どんなことがあっても癌であることを言っではいけません。あくまで胃潰瘍^③だと言いつづけるのです」

「はい」

「癌のことを聞いても笑って相手にしないで下さい」

「しかし、親父^{おやじ}はこの頃、少しずつ助からないことを感じてきているんじゃないかと思うのです」

目と鼻が由蔵にそっくりの長男が言った。

「感じてもいいのです」

「しかしこのままじゃ、いつかは……」

「⑤どう感じとられてもあくまで違^⑥うといい張^⑥るのです。これだけは絶対に守らなければいけません」

直江の強い調子に、長男は仕方なさそうにうなずいた。

① 癌だとは気付いていませんね/没有觉察出是癌吧。(と表示気付く的内容。) ② もしや/或许、莫非。(副词) ③ あくまで/坚持、……到底。(连语) ④ 相手にしないでください/不要理他。 ⑤ どう感じとられても/不管他怎么感到。(他五动词感じ取る表示感到、了解到。) ⑥ いい張る/硬说、坚持说。

「きつと守って下さい。そういい張ることがいま、あなた達がお父さんにできる唯一つの親孝行です」^①

もう一度念を押してから直江は立ち上った。

このところ小橋は憂鬱であつた。憂鬱の原因は十一月の末に退院した戸田次郎のせいだつた。

戸田の額の創^{きず}は創痕にはなつたがきれいにふさがり、頭痛も眩暈^{めまい}もおさまり、通院には支障のない状態で退院した。あとは右眼の外縁から頬へかけて三筋に走つた創の一部が、ケロイド状にもりあがつているのを整形することだが、これには改めてメスを加えて縫合しなおすより、血行促進剤のようなものをつけて吸収を促し、少しずつ小さくしていくのが得策のようであつた。事実、その考えから小橋は戸田が退院する時に、かなり高価なそのチューブ^②入りの薬を与え、その後の経過を見るために、二日に一度は病院に来るように命じた。

だが退院して一週間近くなるのに戸田は一向に現れる気配はなかつた。氣になつて六日目に小橋は入院カルテに書いていった住所のアパートへ電話をかけてみたが、家主の話では戸田はもう半年も前から、そこには住んでいないということだつた。

「どこへ行つちまつたのか、まったく困つた奴だ」^③

十二月に入って初めての当直の日、小橋は例によつて一緒に当直をしている高木亜紀子へ言つた。

「脳波の所見では、まだ多少異状があるから時々来なければいかんと言つておいたのに」

治療費を払えそうもないから早目に退院させようとした院長や、直江の方針に逆らつ

① お父さんにできる唯一つの親孝行能対令尊尽的惟一的孝心。 ② チューブ (tube) 入りの筒装的、管装的。(入り接名词后表示装着、盛着。) ③ どこへ行つちまつたのか/他这是去哪儿了呢。(行つちまつた即行つてしまつた。)

て、身銭^①をきって入院費を立て替えてやっただけに、小橋は亜紀子^②にでも不満をぶちつけるしか方法がなかった。

「わたしは初めからあの人は駄目だと思っていたわ、あんな若いのに定職もなく、飲んばかりいるのですから、住所不定なのも当り前よ」

初めから亜紀子の反応は冷やかだった。

「半年前までは確かに住んでいたのだから、全部が全部、嘘というわけではないんだ」

亜紀子が戸田を否定するとなると、この行きがかり上、小橋は弁護せざるをえなくなる。

「あの人は生れつきの嘘つきよ、誰にでも調子のいいことばかり言って、同情をひくような素振りをみせて、約束なんてなに一つ守りゃしないのよ」

「人間に生れつきの嘘つきなんているわけはない」

「先生はまだあの男をかばおうというわけ？ あんなひどい目にあわされたのに」

「ひどい目になって、ただ金を貸してやっただけじゃないか」

「あの人が病院に来ないのはお金を返したくないからよ。大体、初めからあの人は返す気はなかったのよ」

「そうじゃないさ」

「そうに決ってるわ」

「彼は本当は病院に来たいんだけど、金の工面^⑥がつかないから来られないでいるんだ」

「馬鹿ねえ、先生は」

亜紀子はまた病院にいるのを忘れて、小橋になれなれしい口をきく。もつとも、もう一人の当直看護婦の宇野かおるは夜勤の暇を利用して職員風呂に入浴に行っているので、

① 身銭をきって/自己掏腰包。(慣用句身銭を切る意为为公事等不是为了自己的事而花钱。)

② 亜紀子にでも不満をぶちつけるしか方法がなかった/只好跟亚纪子发泄不满。(ぶち打ち的俗语说法,表示加强语气,ぶちつける即うちつける,意为倾注、发泄;惯用型动词连体形しか方法がない表示除了……没有办法、只有、只好。) ③ 生まれつきの嘘つき/生来的撒谎专家。 ④ 守りゃしない/不守[约]。(守りゃしない即守りはしない的约音形。) ⑤ ひどい目に合わされた/吃了他大苦头。(合わす与合わせる意思相同,目に合わす让……吃苦头。) ⑥ 金の工面がつかない/弄不到钱。(惯用句~の工面がつく表示多方设法筹集款项。) ⑦ なれなれしい口をきく/以过分亲昵的口吻说话。(惯用句口をきく意为说话。)

詰所は二人きりだった。

「そんなことをまだ本気で信じているの？」

「しかし、君のようにそうだと断定する理由もないだろう」

「理由はないわ、でもあの人のこれまでのことを見たらわかるでしょう。酔ってヤクザと喧嘩をしたり、実家からお金を送ってもらうといって、いつまで経ってもこなかったり、病室で花札をしたり、女の病室に入ったり、やることが全部いい加減^①」

口では弁護してみたが、小橋も心の底では同じように思っているの、亜紀子にそうはつきり言われると反論の余地がない。

「先生は甘いわあ」

恋人とはいえ、五つも年下の看護婦にそんなことを言われたのでは小橋としては立つ瀬がない。

「甘いんじゃない。俺が彼の入院費を立て替えたのは、医者として病状に応じた必要な治療だけはしてやりたいという、ただそれだけの気持ちからだ」

「それが甘いのよ」

「どうして？」

「だってそうじゃない。人間は善人も悪人もいるのよ、みんなが善人なら先生の考えもとおるわよ、でもとおらない悪い奴だっているわ、そこを見抜けないなんて……」

「見抜いたさ、そんなことは知ってたよ」

「じゃ、知っててやったというわけ？」

「しかし、医者である以上、目の前に治療の必要な患者がいるのに、見殺しにするわけにいかないだろう」

「見殺しはオーバーよ」

① いい加減/靠不住。(形容动词) ② 甘い/头脑简单。 ③ 立つ瀬がない/没有面子、丢面子、没法下台。(惯用句) ④ みんなが善人なら先生の考えもとおるわよ、でもとおらない悪い奴だっているわ/要是大家都是好人，先生的想法倒也行得通，但是也有让你那种想法行不通的家伙呀。 ⑤ 見殺しにする/见死不救、坐视不管。

「とにかく入院が必要だった」

「でも外来通院では、絶対にいけないってわけでもなかったのでしょう」

「いいんだ。とにかく俺は金なぞ返してもらわなくなつて後悔しない」

「あんな男に五万円も、もつたないわ」

「そう言われると小橋のなかに、また口惜しさがよみがえる。

「初めからあの男にやる気だったのだ」

「医者や看護婦が慈善運動をしてたんじゃ、きりがないわ」

「だけど医療ってのはそういうもんだよ」

「それはそうよ、でもだからといってわたし達だけが犠牲を強いられるのはおかしいわ」

「別に君はなにも慈善運動をしたわけではないじゃないか」

「そうよ、わたし達は毎日患者さんに接して尽しているんですもの、それだけで充分や

つてゐるわ。本当に慈善運動をすべきなのは、医療に従事している以外の人達よ」

「でも医療従事者のなかでも院長のように儲けているのもいるからね」

「それはわたし達と関係ないごく一部だわ」

「とにかく、俺は戸田のことなんか、なんとも思っちゃいないんだ」

「あら、あの人のことを言い出したのは先生よ」

「君がくだらんことを言うからだ」

「わたしはなにか言った？」

その時、宇野かおるが左の小脇に洗面道具をかかえて戻ってきた。風呂上りらしく顔と素足は赭く火照り、白衣の上に洗い髪が垂れている。かおるは二人が近寄って話していたのを見て戸惑った表情を見せた。

① 外来通院/定期到门诊治疗。 ② あんな男に五万円も、もつたないわ/给那种人五万日元太可惜。(に后省略了やるの之类的话。) ③ 医者や看護婦が慈善運動をしてたんじゃ、きりがいいわ/医生和护士要是搞慈善运动的话,那可没完没了。(したんじゃ;きりがいい意为没头、没完没了。) ④ 尽している/为……效力。 ⑤ なんとも思っちゃいない/一点儿也没挂在心上、毫不介意、满不在乎。(なんとも即是なにと、下接否定语,表示无关紧要。) ⑥ くだらん/无聊的。(即くだらない。) ⑦ 風呂上りらしく/好像刚洗完澡。(造语上がり表示刚……过、刚……完。)

「お風呂、よかった？」

「ええ、一人でのんびり入ってきました」

かおるは軽く頭を下げて小橋の前を通り過ぎると、詰所の奥へ行き、その針金に洗ってきた白いストッキングをぶら下げた。

「病室はもうみんな寝ていたでしょう」

「ええ、そうなんですが……」

「なにかあったの？」

「それが……」

靴下を吊し終えてから、かおるは黙りこくっている小橋の方を盗み見た。

「言にくいの？」

「そうじゃないんですが、いま浴室からの帰りに消灯を確かめに六階のほうへ行っただす。そうしたら六〇一で……」

「六〇一号って、花城さんの部屋でしょう。そこでどうしたの？」

「なにか他の人がいるみたいで」

「他の人って、付添いさんじゃなく？」

「それが、変な感じで……」

「変な？」

うつむいたかおるの顔がうつすらと赧い。その顔を見て亜紀子は察しがついた。

「男の人がいるのね」

かおるは自分が叱られてでもいるかのように、眼を伏せたまま、うなずいた。

亜紀子は肩で息をすると、ソファに坐っている小橋の方を振り向いた。小橋は腕を組んだまま斜め前の床を見ていた。

① 黙りこくっている／一直不吱声。(接尾词こくる接在一些动词连用形下,表示一直持续该动作,仿佛除此之外无事可做。) ② そうしたら/结果、于是发现。(相当于そのようにしたところ。) ③ 察しが付いた/有了察觉。(察しが付く为惯用句。)

「で、あなた、なにか言ってきたの？」

かおるは真剣な表情で顔を左右に振った。

「そのまま帰ってきたのね」

「そうです」

「誰かしら？」

亜紀子が小橋の方を向いた。

「マネジャーじゃないのか？」

「男^①の方は夜は帰ってもらうことにしているのです。それにマネジャーは明日からプロダクションの仕事で今日はお昼に見えてすぐ帰ったはずです」

「すると別か？」

「かおるちゃん、あなた、今日夜になってから、誰か男の人が玄関^②に入るのを見なかった」

「わたしは見えてませんが、でもずっと玄関を見張っていたわけじゃありませんから……」

「そうね」

「今夜、表^③を閉めたのは何時だ？」

「九時半です」

「じゃ誰かが入ったとしたら、その前だな」

「玄関に靴はありませんでした」

「靴など病室へ持っていけばわからない」

亜紀子は薄暗い廊下のほうを見やった。時刻はすでに十時を過ぎ、病室は寝静まっている。

① 男の方は夜は帰ってもらうことにしているのです/男's夜晚我们是请他们回去的。(ことにしている表示经常性的决定，其主语是わたしたち等第一人称，而非男の方；第二个は表示对比。) ② 玄関に入る/经过正门。(を表示经由点，即经由正门进入某一场所，表示“通过门进到门里”，强调通过门，若是进入则强调进里面。) ③ 表/前门、正门。

「彼女にはいつも付添いはついてるんだらう」

「若い女の付き人が一人です」

「手術をしてまだ四日目だぞ」

「どうしましょうか」

「もう一度、確かめてみた方がいいだろう」

「^①わたしが病室に行ってくるのですか」

今度は亜紀子が顔を赧らめた。

「一寸様子を見てこいよ」

小橋に促されて亜紀子は立ち上ったが、

「先生も一緒に行って下さい。誰か、知らない男の人でもいたら怖いわ」

「ここへ連れてくればいいだろう」

「ねえ、行って」

亜紀子の声には甘えがあった。小橋はしぶしぶ立ち上った。

「確かめてくるから、留守番頼むわね」

亜紀子はおおるへ言うのと、小橋と並んで廊下へ出た。角のエレベーターは看護婦詰所^{ナースセンタ}のある三階で止っている。亜紀子は扉を開き六階のボタンを押した。

「宇野君は余程驚いたんだな」

「^②そりゃ驚くわよ」

「あれの最中だったのかな」

「いやあね、先生ったら」

派手な声をあげて亜紀子は打つ真似をした。^③

「しかしそうだとしたら、花城純子も相当の悪だ」

① わたしが病室に行ってくるのですか/是要我去病房一趟吗? ② そりゃ驚くわよ/那真是太吃惊了。(そりゃ即それは、在此处作用与副词一样,表示非常、十分、用语言难以表达出来的程度。) ③ 打つ真似をした/装作要打的样子。 ④ 花城純子も相当の悪だ/花城纯子也坏得很。(名词わる表示坏人、坏蛋、坏家伙。)

エレベーターが止って二人は廊下へ出た。六階の廊下は森閑として、中程にある電球がうつすらと廊下を映し出している。花城純子の病室は廊下の一歩奥の右手にある。そこに達するまで三つの病室が並んでいるが、すべて特等室で一室が二つのドアを占拠しているので、ドア数からいうと五つ先になる。

二人は示し合せたように、軽く前かがみになり、忍び足で奥へ向った。周囲の病室は空室で真つ暗である。病室のなかにバス、トイレから冷蔵庫まで備えつけられているからいいようなものの、周囲の病室に患者がいはいのはやはり淋しい。もっとも、それだから何者かが忍び込んだということにもなる。

二人は五つめのドアのところまできて立ち止った。そのドアは控室のドアで、その先に応接室があり、さらに奥にベッドのある部屋がある。

ドアは閉じられて、廊下からではなかの様子は窺いようもないが、病室の廊下側に面した窓は、カーテンをとおして、うつすらと明るい。純子は入院した翌日からベッドの枕元に背丈ほどある赤い笠の電気スタンドを持ちこんでいた。天井の明かりは九時の消灯で消されるから、いま明かりの源になっているのは、そのスタンドに違いなかった。

二人は控室の入口の先で身をかがめ、聞き耳をたてた。数秒、息をころして待ったが、なかからはなにも聞えてこない。

亜紀子が先になり、小橋があとになって二人はさらに進む。ぬき足、さし足、四つんばいに近い恰好でようやく光の洩れる窓の下に達した。

部屋のなかからかすかに音楽が流れてくる。純子のベッドの足元の壁際には小型のステレオが置いてあったが、いまの音楽もそこから流れているらしい。忍び足で近づいたから、知れるわけではないと思うが、やはり人声はない。

小橋はふと、自分達の恰好の滑稽さに気が付いた。どう考えてもこれは医者やるこ

① ドア数からいうと五つ先になる/从门的个数来说是前面第五个。② 示し合せたように/就像事先商量好了似的。③ 前かがみ/弯腰、哈腰。④ 忍び足で/蹑手蹑脚地。⑤ ~からいいようなものの/因为……似乎挺好，可是。(ものの为接续助词，表示转折，用言连体形ようなものの用于先对某事物大致给予委婉的肯定，然后笔锋一转，提出另外相反的问题；からいいものの常用于此惯用型，意为“因为……似乎还可以，可是”、“好在……，可是”、“幸亏……，(否则)……”。)⑥ カーテン (curtain) を通して/透过窗帘。⑦ 聞き耳をたてた/侧耳细听。⑧ 息をころして/屏息。⑨ 四つんばい/手脚着地、爬。

① ではない。こんなところを誰かに見つかったてはもの笑いのたねになる。

「戻ろう」^②と、小橋が亜紀子へ囁きかけた時、なかから人の声がした。

「ばかねえ……」

それは間違いなく純子の声だった。若いが少し嘔^{しわが}れている。語尾を甘くひいたのは男にでもすねているのだろうか。少なくとも、なかに純子以外の人間がいることは間違いないようである。

二人は顔を見合せ、さらに耳を壁に近づけた。

やがて小さな含み笑いがする。曲は続いている。

「だめよ、もう」

また純子の声がする。相手の声は聞えない。それからしばらく沈黙があった。と、突然、人の動く気配がした。低い足音^{あしおと}がしてなかのドアの開く音がする。

「そっちのほうよ……」

再び純子の気^け倦^{だる}げな声がした。

小橋は亜紀子の肘^{ひじ}をつついた。戻ろうという合図である。二人は再び穴ぐらを這^はい出するような恰好で窓の下を抜けると、空いた病室の前へきてようやく背伸びした。

レコードもここからでは聞えない。

「やはりなかに誰かいるのね」

エレベーターに乗ってから、亜紀子はほっとした表情で言った。

「男性ね、付添いはいないんでしょうか」

「付き人の女の子は、控室の方で寝ているのかもしれないぜ」

④「いくら付き人だといっても、隣の部屋であんなことをされて寝ているわけにはいかないでしょう」

① こんなところを誰かに見つかったてはもの笑いのたねになる/这种场面要是被人看见的话会落为笑柄。(見つかる虽是自动词,然而可以以~を~[表示人或组织的名词])に見つかる的形式表示被……发现……、被……看到……;形式名词ところ表示场景、场面;惯用句もの笑いの種になる意为成为笑柄。) ② と/接着。(接续词,与すると同。) ③ 亜紀子の肘をつついた/捅了捅亚纪子的胳膊。 ④ いくら付き人だといっても、隣の部屋であんなことをされて寝ているわけにはいかないでしょう/隔壁房间里有人做那种事,说说是个陪护的,也没法睡觉吧。(される是受的被动形式,在此表示受害被动,遭遇某种不愉快的经历。)